

## 平成 27 年 8 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 27 年 8 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめましたので、その概要を公表します。

## 概 要

- 平成 27 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 2 万 3,925 人でした。なお、8 月上旬（1 日～10 日）の救急搬送人員数は 1 万 7,661 人となり、昨年 8 月の 1 ヶ月間の救急搬送人員数 1 万 5,183 人を超えています。8 月上旬に北日本から西日本にかけて晴れて気温が高くなった日が多く、各地で日最高気温が 35℃以上の猛暑日となったことが要因のひとつと考えられます。また、平成 27 年 6 月から 8 月の合計搬送人員数は 5 万 1,524 人、死亡者数は 101 人で、調査を 6 月から開始した平成 22 年以降、両者とも 2 番目に多い人数となっています。例年 9 月に入っても真夏日（30 度以上）が観測される日があることから、熱中症への警戒が引き続き必要です。
- 救急搬送の状況の内訳については次の通りです。
  - 救急搬送人員数の年齢区分では高齢者（65 歳以上）が 1 万 2,187 人と半数以上を占め、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）8,797 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）2,762 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）179 人の順となっています。8 月の救急搬送人員数における高齢者の占める割合が昨年同時期に比べ増加しており、引き続き、高齢者における熱中症対策は重要と言えます。
  - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 1 万 5,056 人、次いで中等症 8,039 人、重症 617 人、死亡 60 人となっています。
  - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、和歌山県が最も多く 33.43 人であり、次いで高知県 27.99 人、岡山県 27.76 人の順となっています。

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

【資料】 [平成27年8月の熱中症による救急搬送の状況](#)



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：寺谷、平井、足立

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

# 平成 27 年 8 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成27年8月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

## 1 総 数

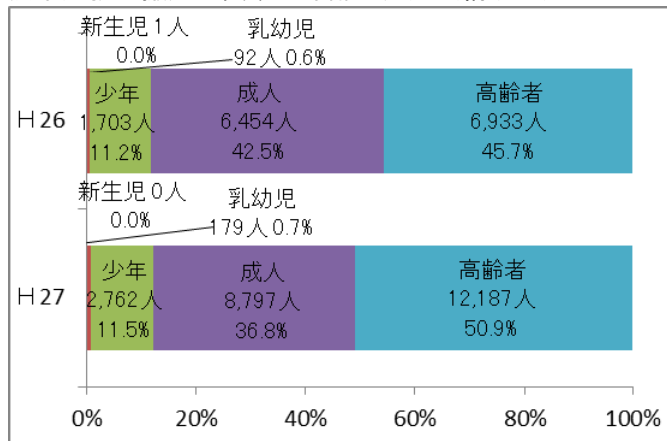
平成 27 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は2万 3,925 人でした。なお、8月上旬（1日～10日）の救急搬送人員数は1万 7,661 人となり、昨年8月の1ヶ月間の救急搬送人員数1万 5,183 人を超えています。8月上旬に北日本から西日本にかけて晴れて気温が高くなった日が多く、各地で日最高気温が35℃以上の猛暑日となったことが要因のひとつと考えられます。また、平成 27 年6月から8月の合計搬送人員数は5万 1,524 人、死亡者数は101人で、調査を6月から開始した平成 22 年以降、両者とも2番目に多い人数となっています。例年9月に入っても真夏日（30度以上）が観測される日があることから、熱中症への警戒が引き続き必要です。（資料 1、5、6、7）

## 2 内 訳

### （1）年齢区分ごとの救急搬送人員数

- 高齢者（65歳以上）が1万 2,187 人（50.9%）と半数以上を占め、次いで成人（18歳以上 65歳未満）8,797 人（36.8%）、少年（7歳以上 18歳未満）2,762 人（11.5%）、乳幼児（生後 28 日以上 7歳未満）179 人（0.7%）の順となっています。8月の救急搬送人員数における高齢者の占める割合が昨年同時期に比べ増加しており、引き続き、高齢者における熱中症対策は重要と言えます。（資料 1）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



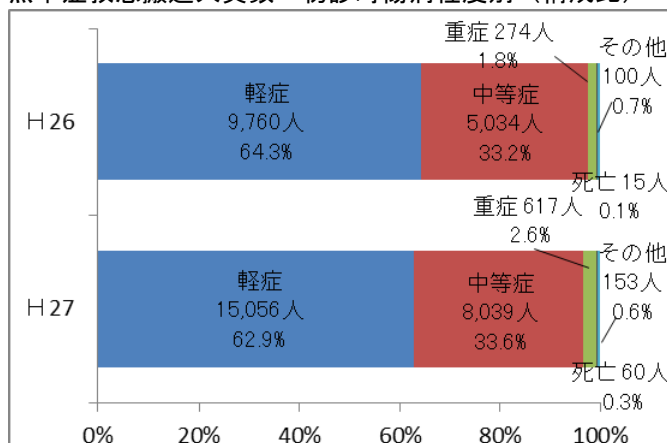
#### 凡例

新生児：生後 28 日未満の者  
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者  
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者  
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者  
 高齢者：満 65 歳以上の者

### （2）医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く 1万 5,056 人（62.9%）、次いで中等症 8,039 人（33.6%）、重症 617 人（2.6%）、死亡 60 人（0.3%）となっています。（資料 1）

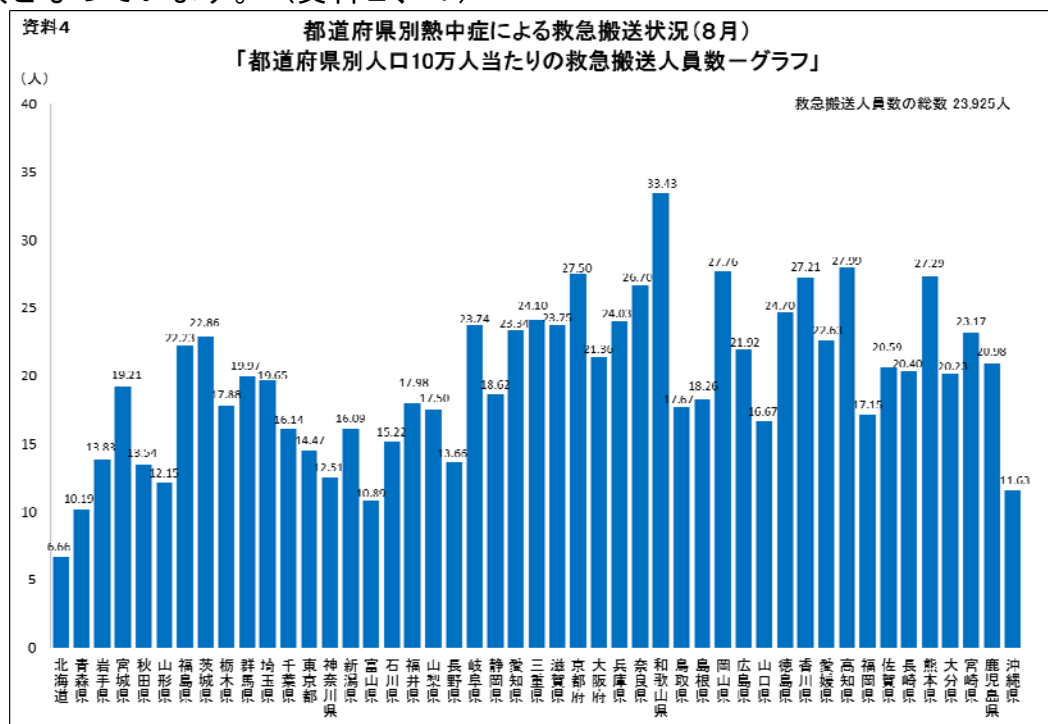
熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）



#### 凡例

軽 症：入院を必要としないもの  
 中等症：重症または軽症以外のもの  
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上  
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの  
 その他 医師の診断がないもの  
 傷病程度が判明しないもの  
 その他の場所に搬送したもの

- (3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数  
和歌山県が最も多く 33.43 人であり、次いで高知県 27.99 人、岡山県 27.76 人の順となっています。(資料 2、4)



## 【参 考】

### ○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

消防庁では、以下の HP にて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2705/pdf/270501-1.pdf>

### ○ 気象庁「8月の天候」より

上旬は、太平洋高気圧が本州付近に張り出し、北日本から西日本にかけて晴れて気温が高くなった日が多く、各地で日最高気温が 35℃以上の猛暑日となった。旬平均気温も高く、東日本ではかなり高くなった。沖縄・奄美でも太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多かったが、台風第 13 号の影響で 7 日から 8 日にかけて曇りや雨となり、先島諸島では暴風雨となった。

中旬は、北日本から西日本にかけて低気圧や前線の影響を受けやすかった。沖縄・奄美では、太平洋高気圧の縁を回って流れ込む湿った気流の影響で旬の中頃を中心に曇りや雨となった。

下旬は、オホーツク海から高気圧が張り出し、北東から冷たい空気が流れ込んだ北・東日本と、台風第 15 号や前線の影響で天気の崩れた西日本で気温がかなり低かった。東北太平洋側では、旬間日照時間が平年比 19% となり、1964 年と並んで少ない方から 1 位タイの記録となった(統計開始 1961 年)。

## 平成 27 年 8 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況  
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況  
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況  
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況  
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況  
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 日別の救急搬送人員数（全国）と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ
- 資料 7 平成 22 年～27 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表
- 資料 8 平成 27 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ

資料1

**都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月)**  
**「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」**

都道府県		平成27年8月1日～8月31日											
		年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	5	35	124	203	367	1	11	116	224	15	367
2	青森県	0	1	5	42	92	140	0	10	55	75	0	140
3	岩手県	0	0	24	63	97	184	1	4	68	111	0	184
4	宮城県	0	2	47	175	227	451	3	25	223	200	0	451
5	秋田県	0	2	15	49	81	147	1	7	40	93	6	147
6	山形県	0	0	22	47	73	142	0	3	53	86	0	142
7	福島県	0	3	44	160	244	451	1	8	127	315	0	451
8	茨城県	0	7	89	285	298	679	5	14	237	422	1	679
9	栃木県	0	2	38	148	171	359	0	16	128	215	0	359
10	群馬県	0	4	65	156	176	401	0	13	130	254	4	401
11	埼玉県	0	5	156	566	687	1,414	1	41	429	943	0	1,414
12	千葉県	0	9	90	417	487	1,003	2	21	366	614	0	1,003
13	東京都	0	8	158	779	959	1,904	2	77	739	1086	0	1,904
14	神奈川県	0	17	128	473	514	1,132	1	32	394	705	0	1,132
15	新潟県	0	3	47	129	203	382	2	8	112	259	1	382
16	富山県	0	0	17	43	59	119	1	11	41	63	3	119
17	石川県	0	0	29	54	95	178	0	3	52	123	0	178
18	福井県	0	3	15	54	73	145	2	3	52	88	0	145
19	山梨県	0	1	26	44	80	151	1	3	64	83	0	151
20	長野県	0	2	42	87	163	294	1	4	113	176	0	294
21	岐阜県	0	5	70	165	254	494	1	25	239	229	0	494
22	静岡県	0	8	84	289	320	701	3	12	195	491	0	701
23	愛知県	0	9	157	624	940	1,730	3	55	503	1169	0	1,730
24	三重県	0	4	35	178	230	447	1	8	89	293	56	447
25	滋賀県	0	2	30	132	171	335	0	7	64	264	0	335
26	京都府	0	1	87	254	383	725	0	6	165	554	0	725
27	大阪府	0	9	243	722	920	1,894	8	23	517	1346	0	1,894
28	兵庫県	0	15	148	444	736	1,343	2	26	417	898	0	1,343
29	奈良県	0	0	65	111	198	374	0	7	114	253	0	374
30	和歌山県	0	4	44	103	184	335	3	8	74	248	2	335
31	鳥取県	0	0	18	37	49	104	0	4	45	55	0	104
32	島根県	0	1	12	37	81	131	0	4	59	68	0	131
33	岡山県	0	8	55	188	289	540	2	14	151	334	39	540
34	広島県	0	6	75	207	339	627	2	12	273	340	0	627
35	山口県	0	1	46	84	111	242	2	4	81	155	0	242
36	徳島県	0	2	17	54	121	194	2	10	76	103	3	194
37	香川県	0	0	27	82	162	271	1	9	130	131	0	271
38	愛媛県	0	5	36	111	172	324	1	7	81	234	1	324
39	高知県	0	1	31	59	123	214	2	5	57	149	1	214
40	福岡県	0	9	125	317	419	870	1	7	416	439	7	870
41	佐賀県	0	2	25	65	83	175	0	4	60	110	1	175
42	長崎県	0	0	24	94	173	291	0	1	129	161	0	291
43	熊本県	0	4	84	161	247	496	0	12	183	301	0	496
44	大分県	0	4	24	86	128	242	0	4	103	135	0	242
45	宮崎県	0	1	33	97	132	263	0	8	90	165	0	263
46	鹿児島県	0	0	45	136	177	358	0	11	161	186	0	358
47	沖縄県	0	4	30	65	63	162	1	10	28	110	13	162
合計【人】		0	179	2,762	8,797	12,187	23,925	60	617	8,039	15,056	153	23,925
割合		0.0%	0.7%	11.5%	36.8%	50.9%	100.0%	0.3%	2.6%	33.6%	62.9%	0.6%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

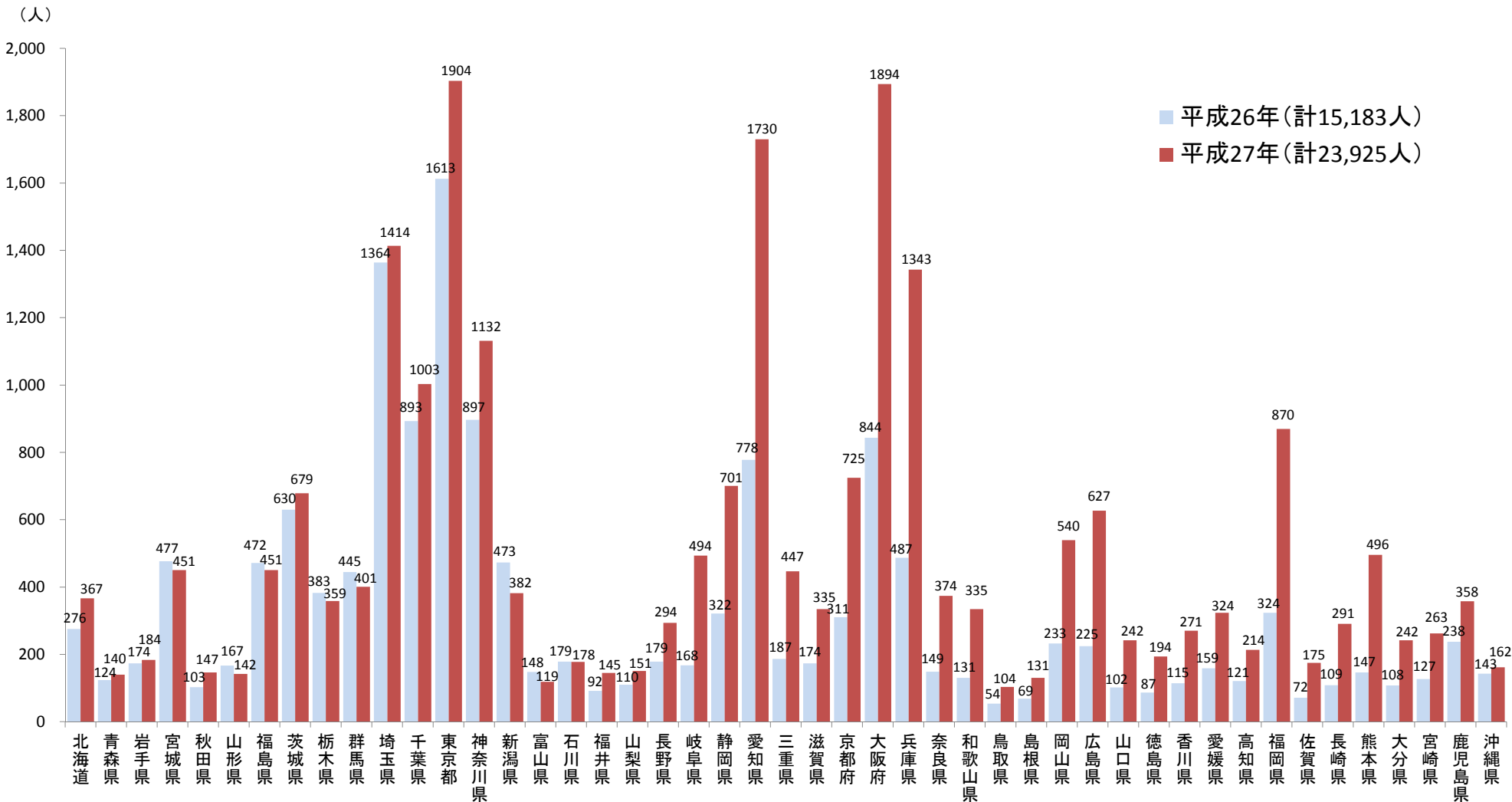
## 資料2

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月)  
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	8月1日～8月31日			
	平成26年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)
1 北海道	276	367	6.66	1.3
2 青森県	124	140	10.19	1.1
3 岩手県	174	184	13.83	1.1
4 宮城県	477	451	19.21	0.9
5 秋田県	103	147	13.54	1.4
6 山形県	167	142	12.15	0.9
7 福島県	472	451	22.23	1.0
8 茨城県	630	679	22.86	1.1
9 栃木県	383	359	17.88	0.9
10 群馬県	445	401	19.97	0.9
11 埼玉県	1364	1414	19.65	1.0
12 千葉県	893	1003	16.14	1.1
13 東京都	1613	1904	14.47	1.2
14 神奈川県	897	1132	12.51	1.3
15 新潟県	473	382	16.09	0.8
16 富山県	148	119	10.89	0.8
17 石川県	179	178	15.22	1.0
18 福井県	92	145	17.98	1.6
19 山梨県	110	151	17.50	1.4
20 長野県	179	294	13.66	1.6
21 岐阜県	168	494	23.74	2.9
22 静岡県	322	701	18.62	2.2
23 愛知県	778	1730	23.34	2.2
24 三重県	187	447	24.10	2.4
25 滋賀県	174	335	23.75	1.9
26 京都府	311	725	27.50	2.3
27 大阪府	844	1894	21.36	2.2
28 兵庫県	487	1343	24.03	2.8
29 奈良県	149	374	26.70	2.5
30 和歌山県	131	335	33.43	2.6
31 鳥取県	54	104	17.67	1.9
32 島根県	69	131	18.26	1.9
33 岡山県	233	540	27.76	2.3
34 広島県	225	627	21.92	2.8
35 山口県	102	242	16.67	2.4
36 徳島県	87	194	24.70	2.2
37 香川県	115	271	27.21	2.4
38 愛媛県	159	324	22.63	2.0
39 高知県	121	214	27.99	1.8
40 福岡県	324	870	17.15	2.7
41 佐賀県	72	175	20.59	2.4
42 長崎県	109	291	20.40	2.7
43 熊本県	147	496	27.29	3.4
44 大分県	108	242	20.23	2.2
45 宮崎県	127	263	23.17	2.1
46 鹿児島県	238	358	20.98	1.5
47 沖縄県	143	162	11.63	1.1
計	15,183	23,925		

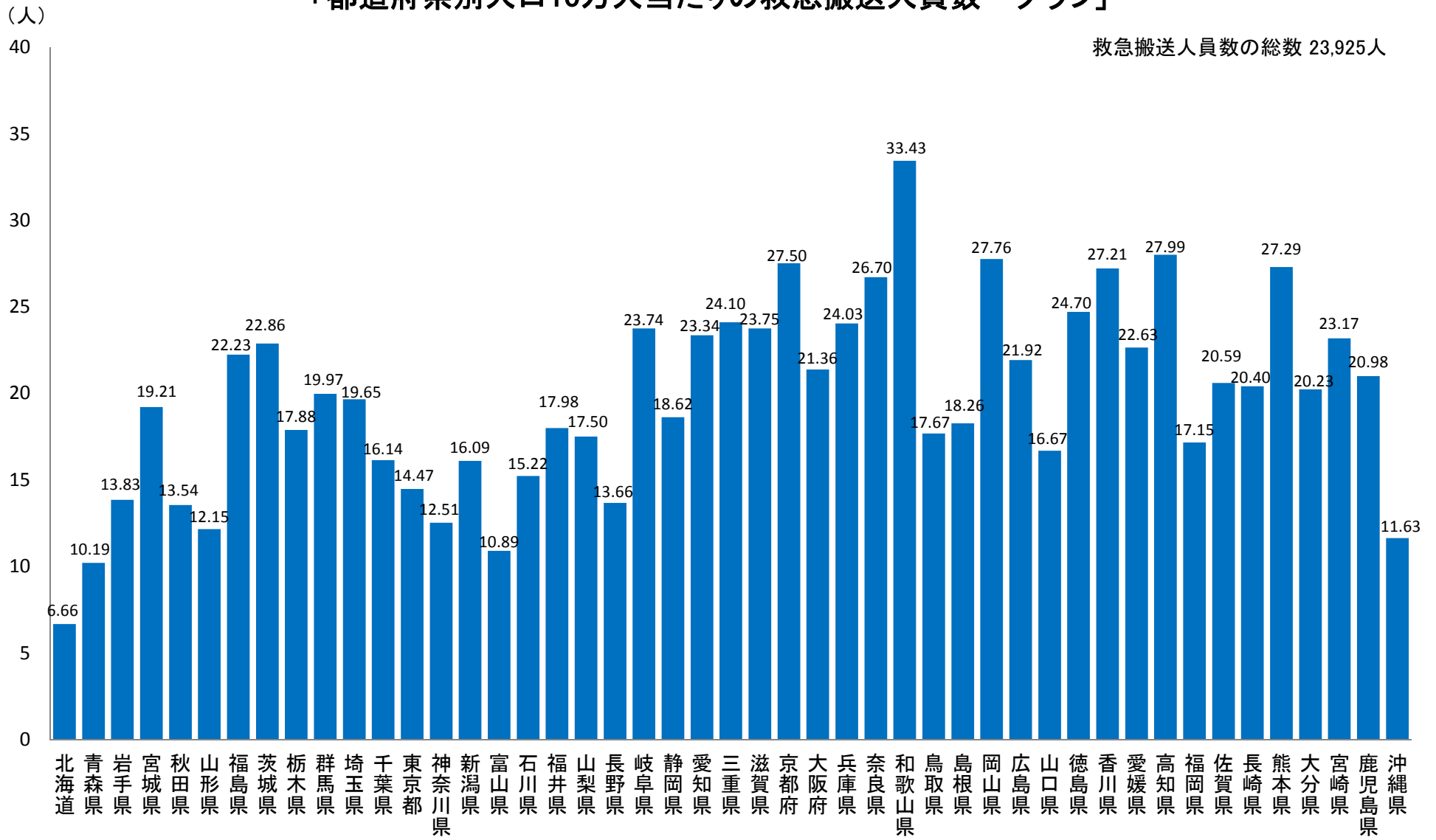
資料3

# 都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月)  
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」





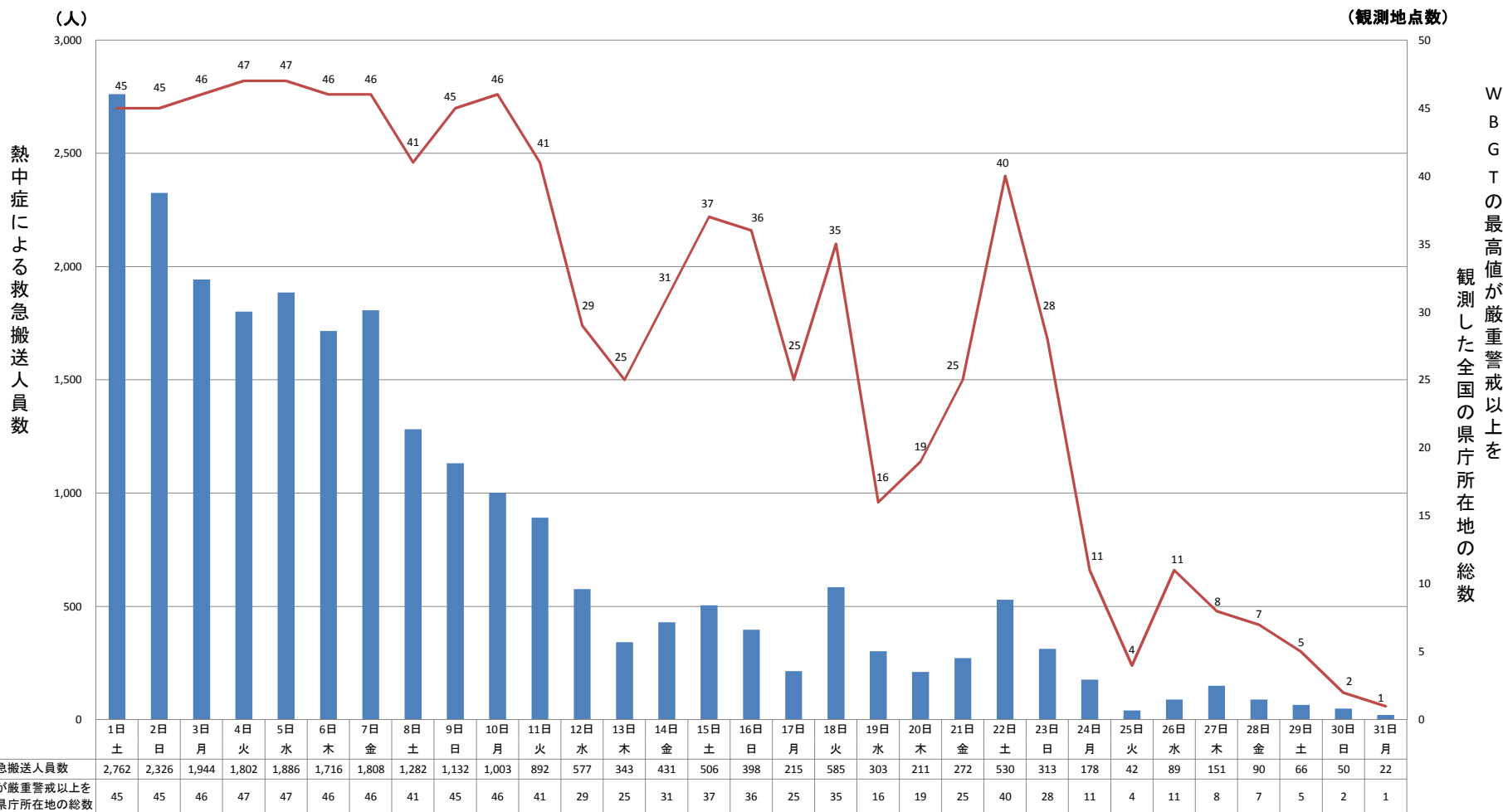
## 資料5

## 全国の熱中症による救急搬送状況(8月)

### 「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬送 人員数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
8月1日	土	2,762	0	28	425	1,095	1,214	2,762	8	83	781	1,876	14	2,762
8月2日	日	2,326	0	29	350	896	1,051	2,326	6	58	647	1,596	19	2,326
8月3日	月	1,944	0	6	160	673	1,105	1,944	3	77	731	1,125	8	1,944
8月4日	火	1,802	0	13	194	683	912	1,802	4	59	650	1,077	12	1,802
8月5日	水	1,886	0	7	166	704	1,009	1,886	6	58	676	1,136	10	1,886
8月6日	木	1,716	0	11	166	662	877	1,716	4	42	640	1,023	7	1,716
8月7日	金	1,808	0	7	201	677	923	1,808	10	62	623	1,105	8	1,808
8月8日	土	1,282	0	10	195	419	658	1,282	4	22	392	853	11	1,282
8月9日	日	1,132	0	13	153	359	607	1,132	5	26	370	723	8	1,132
8月10日	月	1,003	0	4	80	328	591	1,003	1	23	395	581	3	1,003
8月11日	火	892	0	11	76	304	501	892	3	19	356	512	2	892
8月12日	水	577	0	4	45	175	353	577	2	15	203	349	8	577
8月13日	木	343	0	2	22	105	214	343	0	6	120	212	5	343
8月14日	金	431	0	2	39	147	243	431	1	7	146	272	5	431
8月15日	土	506	0	10	58	180	258	506	0	8	170	320	8	506
8月16日	日	398	0	3	49	149	197	398	1	4	128	263	2	398
8月17日	月	215	0	0	22	89	104	215	2	5	89	117	2	215
8月18日	火	585	0	3	58	299	225	585	0	11	180	392	2	585
8月19日	水	303	0	1	26	130	146	303	0	7	106	189	1	303
8月20日	木	211	0	1	24	78	108	211	0	1	67	137	6	211
8月21日	金	272	0	2	28	96	146	272	0	5	91	175	1	272
8月22日	土	530	0	2	94	204	230	530	0	7	154	365	4	530
8月23日	日	313	0	1	49	121	142	313	0	6	79	225	3	313
8月24日	月	178	0	2	17	52	107	178	0	1	66	108	3	178
8月25日	火	42	0	0	4	10	28	42	0	0	20	22	0	42
8月26日	水	89	0	3	12	27	47	89	0	2	27	60	0	89
8月27日	木	151	0	1	14	62	74	151	0	1	49	101	0	151
8月28日	金	90	0	1	9	28	52	90	0	1	35	53	1	90
8月29日	土	66	0	1	15	21	29	66	0	0	24	42	0	66
8月30日	日	50	0	1	8	21	20	50	0	1	14	35	0	50
8月31日	月	22	0	0	3	3	16	22	0	0	10	12	0	22
計		23,925	0	179	2,762	8,797	12,187	23,925	60	617	8,039	15,056	153	23,925
熱中症の救急搬送人員数に 対する割合			0.0%	0.7%	11.5%	36.8%	50.9%	100.0%	0.3%	2.6%	33.6%	62.9%	0.6%	100.0%

# 日別の救急搬送人員数(全国)と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(8月)



**【参考】**

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 全国841地点数のうち、47都道府県の県庁所在地の総数と比較しています。
- (3) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (4) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より

資料7

# 平成22年～27年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧一表

(単位:人)

	平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)		
	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	
確定値	5月	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	月ごとの報道発表で更新していきます。		1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		54,428	104	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

※平成27年は4月27日から調査を開始

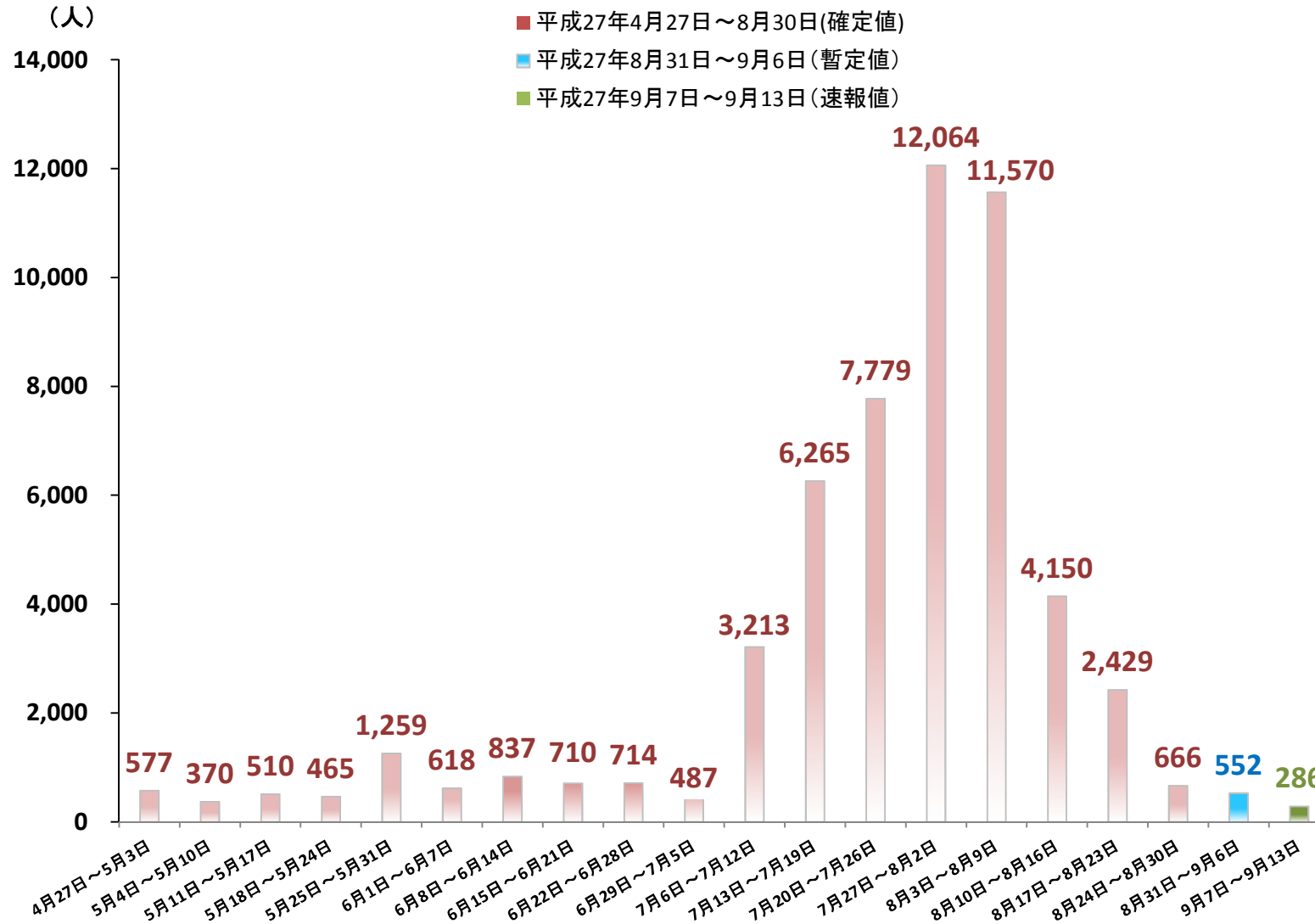
平成26年は5月19日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平年)
沖縄	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料8

# 平成27年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

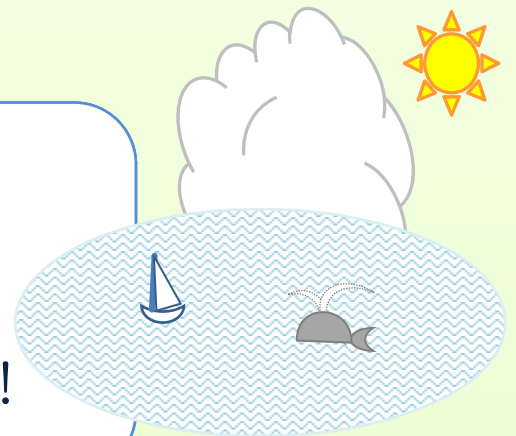


\* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

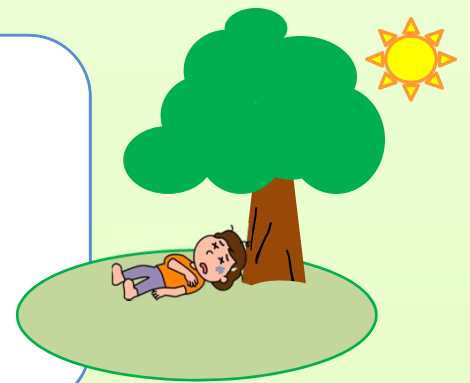
# 熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。  
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行くべき状態や症状についても紹介しています。  
当てはまる場合は、ためらわずに119番しましょう。

※消防庁が作成した「救急受診ガイド」や、「救急車利用リーフレット」も合わせてご覧ください  
(消防庁HP「<http://www.fdma.go.jp/>」の右側のバナーをクリック)



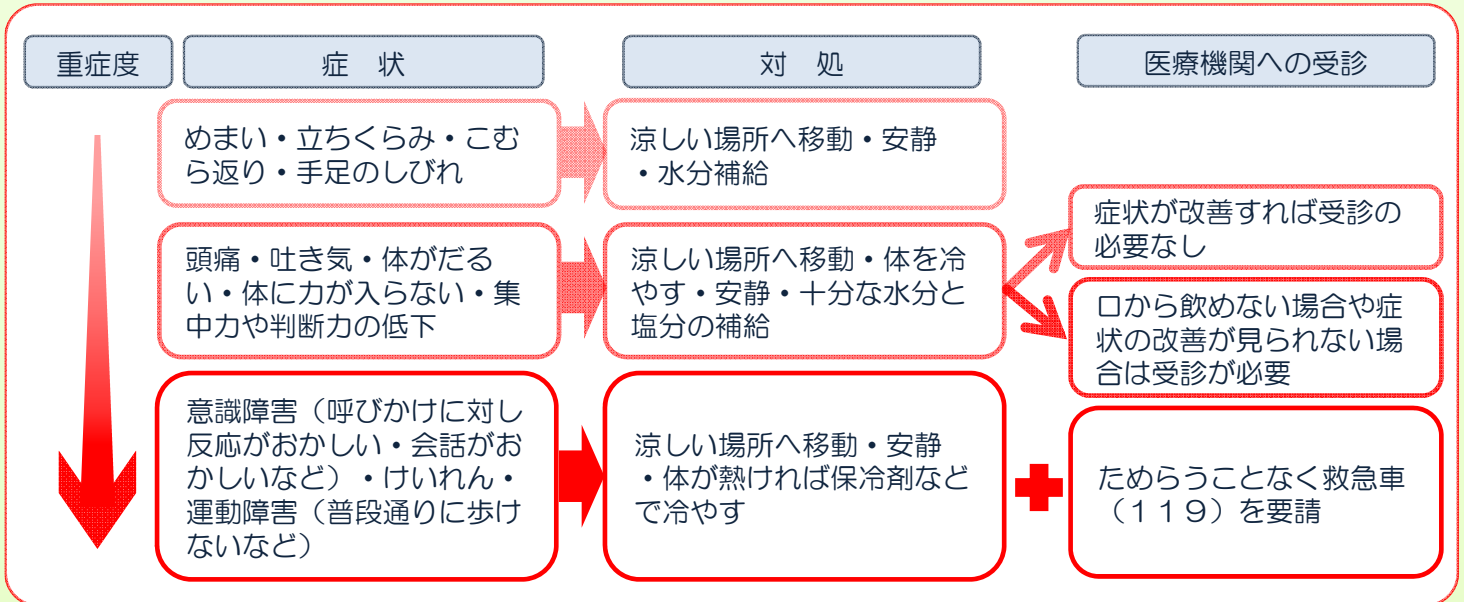
心臓や腎臓、その他持病をお持ちの方は、夏の過ごし方についてかかりつけの医師に相談し、上手にコントロールしましょう。

## 熱中症とは？

室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

## 熱中症の分類と対処方法



## こんな時はためらわずに救急車を呼びましょう



- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合は、ためらわずに救急車を呼んでください。
- 意識がない（おかしい）、全身のけいれんがあるなどの症状を発見された方は、ためらわずに救急車を呼んでください。

## 熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック！  
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ☺ のどが渇く前に水分補給！
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- ☺ 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を！
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



## 子供の特徴

地面の照り返しにより、高い温度にさらされる



汗腺などが未熟

体温調節機能が未熟なため、**熱中症にかかりやすい**

## 保護者の方へ

- 👉 お子さんの様子を十分に観察しましょう！
- 👉 遊びの最中には、水分補給や休憩を！
- 👉 外出時の服装に注意し、帽子も忘れずに！
- 👉 日頃から栄養バランスのとれた食事や運動、遊びを通して暑さに負けない体づくりを実践しましょう！

## 高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい



暑さを感じにくい

汗をかきにくい

体温を下げるための体の反応が弱くなっており、**自覚がないのに熱中症になる危険がある**

## 熱中症にならないために

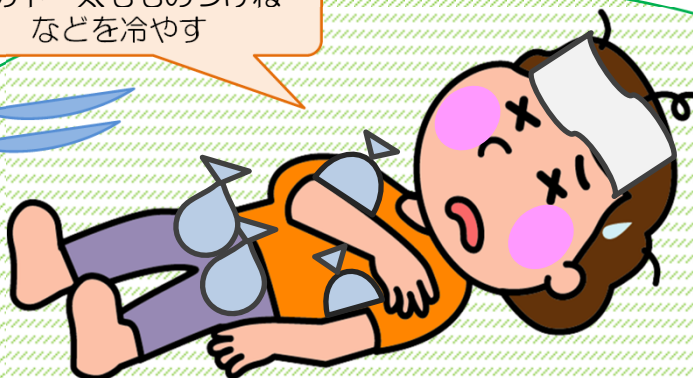
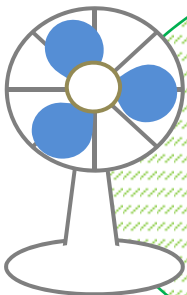
- 👉 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- 👉 のどが渇かなくても水分補給！
- 👉 調子が悪いと感じたら、家族や近くの人にそばにいてもらいましょう！

## + 熱中症の応急手当 +

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



脇の下・太もものつけねなどを冷やす



飲めるようであれば水分を少しずつ頻回に取らせる



🚨 持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



消防庁では、夏期（6月～9月）における熱中症による救急搬送の全国調査を実施しています。年代別では高齢者が4割を占めており、また、乳幼児と少年を合わせると1割以上となっています。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方が入院しています。

### 6月～9月の熱中症による救急搬送者の内訳（平成22年～平成26年合計）

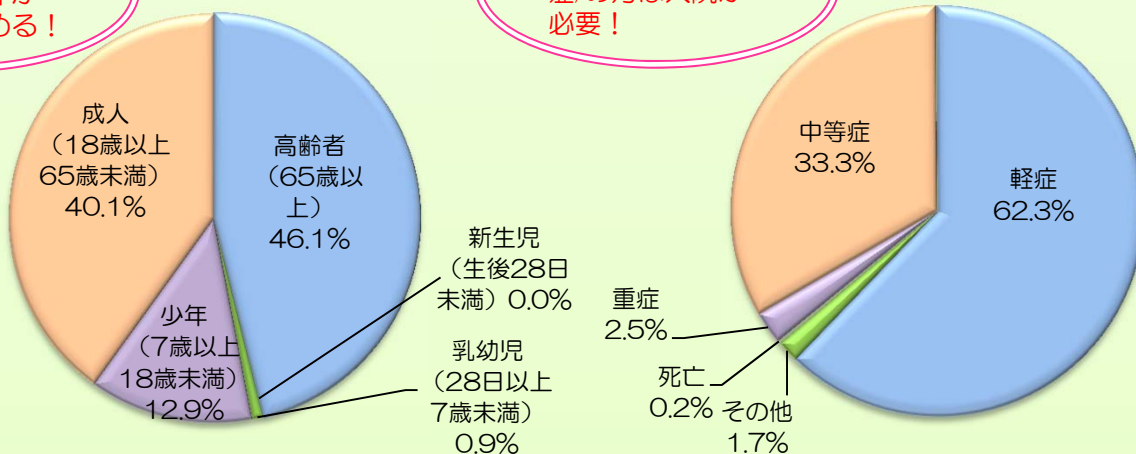
搬送人員計 247,066人

#### 【年齢区分別】

#### 【傷病程度別】

高齢者が約4割、  
乳幼児と少年が  
約1割を占める！

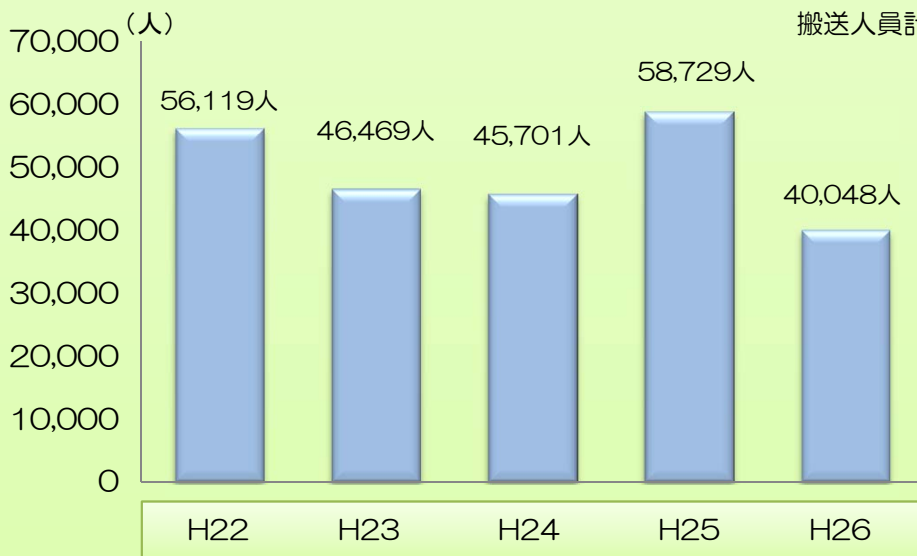
約4割(重症・中等  
症)の方は入院が  
必要！



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

### 熱中症による救急搬送者数（平成22年～平成26年 6月～9月）

搬送人員計 247,066人



◆ 消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。  
URL : <http://www.fdma.go.jp/>

参考

環境省：「熱中症環境保健マニュアル」 [http://www.env.go.jp/chemi/heat\\_stroke/manual.html](http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/manual.html)